

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
E112K019	学校保健(小児保健, 精神保健, 学校安全及び救急処置を含む。)(School Health)														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
必修	2	3	教育学部			氏名 玉江 和義 E-mail k-tamae@oita-u.ac.jp 内線 7624									
授業の概要	学校における保健教育と保健管理の知識と技術を学ぶ。保健教育に必要な知識は生理・解剖学や衛生学・公衆衛生学の知識と連動し、集団としての健康について学習する。公衆衛生学は、複合学問領域であるため、学習内容は種々の学問分野を通して理解されねばならない。公衆衛生学に基づく健康観、およびヘルスプロモーションの習得を通して、個人または集団としての健康維持増進の在り方を講じる。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	学校における保健の管理と運営法を説明できる														
目標2	保健・体育教科の教育内容を説明できる														
目標3	簡単な救急処置の知識・方法を理解することができる														
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1 学校保健の概要(領域・法律)															
2 学校保健の概要(学校保健の法規)															
3 保健科教育の目標と内容															
4 健康概念															
5 中学校における保健領域															
6 教育法概論															
7 中学単元別教育内容(心身の発達)															
8 中学単元別教育内容(健康と環境)															
9 中学単元別教育内容(傷害の防止)															
10 中学単元別教育内容(疾病の予防)															
11 学校保健管理(制度)															
12 学校保健管理(健康診断)															
13 学校環境衛生															
14 学校の安全と救急処置															
15 まとめ															
ラーニング	A:知識の定着・確認	小テスト	工夫 その 他の	他教科(衛生学および公衆衛生学)との関連付けをしながら、授業内容を構築する。											
	B:意見の表現・交換	最終課題													
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	授業時間以外の日常において、健康を考究することを課す。時として、それを発問や授業内容と接続させる形で発展を促す。													
	事後学修	授業で学習した内容論と方法論を日常で実践することを強く奨励する。													
教科書	テキスト集を配布														
参考書	資料を配布する														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	小テスト	30%													
	最終課題	70%													
		小テストおよび課題の合格を単位取得の条件とする。													
注意事項	正当な理由なき遅刻や欠席には厳正に対処する。 授業における準備(授業前の検温や体調管理、マスク着用、資料集などの用意、など)を万全にして受講されたい。														
備考															
リンク															
	URL														

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	本科目は、複数の国立大学法人にて20年ほどの担当経験を有する